研究課題	ICTを活用した伝統文化・郷土学習カリキュラムの開発と デジタルアーカイブの作成	
副題	~語り継げ!!郷土の偉人「近松門左衛門」地域から全国そして世界へ~	
キーワード	近松郷土学習、ICT活用、カリキュラム・マネジメント	
学校/団体 名	尼崎市立下坂部小学校	
所在地	〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部1丁目12番1号	
ホームページ	ームページ http://www.ama-net.ed.jp/school/E07/	

## 1. 研究の背景

郷土の伝統文化を知り、学ぶことは、子どもたちの豊かな人間性と創造性を育むために、欠かすことのできない学習である。また、地域の活性化という観点からも重要な課題であると考える。本校は長年、郷土にゆかりのある近松門左衛門を核に据えた「近松郷土学習」に取り組んできた。しかしながら、地域住民の高齢化にともなう語り部の減少等により、子どもたちが伝統文化を継承するための学びの機会を失いつつある。

そこで、ICT を活用して、学びの履歴や情報資源をデジタルアーカイブとして保存していく取組を行い、子どもたちの「学びのつながり・広がり」を展開するためのカリキュラム開発を行いたいと考えた。

### 2. 研究の目的

タブレット端末を活用し、近松門左衛門に関する取材先の資料や撮影した画像を編集する。作成したデジタルアーカイブを地域施設等と相互アクセスできる環境を整備し、地域との連携を強めていく。また郷土の文化や伝統を学び残すだけでなく、他の地域への発信と共有にも取り組む。兵庫県下においても本校と同様に近松や浄瑠璃を題材にした学習に取り組む学校が数校ある。それらの学校とICTを活用し、「学びのつながり・広がり」を展開できるカリキュラム開発を行う。研究を通して、児童の発信力・創造力・郷土愛、地域や保護者の学校へ対する関心・興味、相互の連携力の強化等をねらう。

# 3. 研究の経過

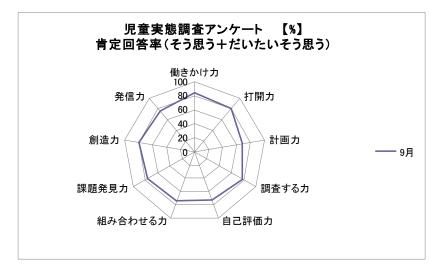
学期	月日	内容
1 学期	4月22日	全体研究会
	5月15日	研究推進・学力向上委員会
	6月22日	研究推進委員会
	7月3日	☆図工 公開授業
	7月6日	児童アンケートの結果から指導案作成へ
2 学期	9月7日	研究推進・学力向上委員会
	9月7日	☆社会科 公開授業

	9月18日	☆3年1組 公開授業
		☆4年1組・2組 全体公開授業
		全体研究会
		指導助言 大阪教育大学 木原俊行 教授
	9月25日	研究推進•学力向上委員会
	10月5日	研究推進・学力向上委員会
	11月2日	☆3年2組 公開授業
	11月4日	☆4年2組 公開授業
	11月11日	☆2年2組 ブロック公開授業
	11月16日	研究推進・学力向上委員会
	11月25日	☆6年2組 公開授業
		☆5年2組 全体公開授業
		全体研究会
		指導助言・講話 大阪教育大学 木原 俊行 教授
	11月30日	☆ひまわり② 公開授業
	12月3日	☆音楽科 公開授業
	12月4日	近松デー
	12月7日	研究推進・学力向上委員会
	12月8日	☆1年2組 公開授業
	12月8日	全国学力テスト分析
	12月11日	☆1年1組 公開授業
	12月16日	☆2年1組 公開授業
	12月22日	☆ひまわり学級 公開授業
3 学期	1月20日	☆6年2組 ブロック研
		総合的な学習 「近松門左衛門を同級生に発信しよう!」
	1月22日	☆2年2組 公開授業
	1月25日	研究推進・学力向上委員会
	1月27日	☆5年2組 公開授業
	1月29日	☆3年1組 ブロック研
	2月 9日	☆6年1組 公開授業
		総合的な学習 「近松門左衛門を同級生に発信しよう!」
	2月 8日	研究推進委員会
	2月 19日	全体研究会
	3月 2日	全体研究会
		指導助言・講話 大阪教育大学 木原 俊行 教授

# 4. 代表的な実践

(1) 近松門左衛門を地域の同級生に広く発信しよう! (6年生の実践)

児童実態調査アンケート (実施時期:令和2年9月 対象:6年生児童59名)



働きかけ力	84%
打開力	80%
計画力	68%
調査する力	78%
自己評価力	73%
組み合わせる力	74%
課題発見力	76%
創造力	80%
発信力	76%

アンケートを分析し、計画力(自主的に計画立てることへの苦手意識)、自己評価力(自信のなさから起因する)の低さに着目した。ICTを積極的に活用し、強みである働きかけ力、打開力、創造力を生かしながら、弱みの部分の改善を図るため、近松門左衛門を他校に発信するためのパンフレット作りに取り組んだ。

	近松学習を発信しよう!				
目標	知誰	************************************	□近松について学習したことや調べたことから、発信したい内容を		
	大中戦で フなり 3/J		まとめて、整理して考えている。		
	考え抜く力		□近松について伝えたいことを明確にし、効果的に伝わる文章構成		
			を考えてパンフレットを作成しようとする。		
	前に踏み出す力		□ICT を活用して、学校の下級生や他校の同級生に向けて自分の学		
			校が誇るべき近松学習を広め、発信しようとしている。		
	共に働く力		□出来上がったパンフレットを推敲しよりよいものを作ろうとして		
			いる。		
			について「誰に」「何を」発信したいのか考える … (課題設定)		
	1	今まで学習し	た ICT を活用する。		
内	2	・日本文化について書かれた本やパンフレットなどを読む。 … (情報収集)			
容	(3)	・実際に近松に	関するものを自分たちで写真に撮る。		
	(3)	・近松記念館で	情報を収集して、館長さんに話を聞く。 … (情報収集)		
方	4	④ ・伝えたいことを明確に効果的に伝わる文章構成を考える。 … (整理・分析)			
法	(5)	<ul><li>絵や写真など</li></ul>	文章との組み合わせ<割り付け・見出し・写真の配置>を考える。		
	(3)		… (整理・分析)		
	6	・集めた情報を	ICT を活用してパンフレットにまとめる。…(まとめ・表現)		

	7	・作ったパンフ	レットを推敲する。 … (まとめ・表現)
	8	<ul><li>出来たポスタ、</li></ul>	ーを配る方法を考え発信する。 …(まとめ・表現)
	9	<ul><li>学習のふりか。</li></ul>	えりをする。 … (まとめ・表現)
	知識をつなげる力		□近松について学習したことや調べたことから、発信したい内容を
			コラボノートでまとめ、必要な情報を正しく選んでいる。
	考え抜く力		□近松について伝えたいことを、伝える相手を意識して、効果的に
評			伝わるように文章構成を考えパンフレットを作成している。
価	前に踏み出す力		□コラボノートを活用してパンフレットを作り、たくさんの人に学
			校が誇るべき近松学習を広め、発信しようとしている。
	共に働く力		□出来上がったパンフレットを友だちと交流して推敲し、近松門左
			衛門を知らない人にもわかりやすく作ろうとしている。



写真1:思考ツールを活用して文章を構成



写真2:コラボノートを活用した交流



完成したパンフレットの一部

総合的な学習を軸に置き、国語科、社会科などとも 関連させて、実践に取り組んできた。

総合的な学習の単元「近松学習を発信しよう」は、一学期から計画的に進め、近松資料室のオープン、パンフレット作り、他校の6年生への発信、および市役所・地域振興センター・近松記念館へのパンフレット配布・設置と、系統立てて取り組むことができた。

また、ICTのコラボノートを活用して、自分の考えや友だちの考えを交流することのよさを、児童自身が体感し、ICTを効果的に活用しようとする積極的な姿勢が随所に見られた。

## (2) ICTを活用した伝統文化のデジタルアーカイブ化

令和2年度は、コロナ禍により教育活動に様々な制限が設けられた。例年であれば、三味線 のお師匠さんや、地域の近松保存会の方々を講師にお招きし、三味線や下坂部音頭について直接 指導をしていただいていたが叶わなかった。そこで、児童相互による教え合い、学び合いをこれ まで以上に充実させ、ICTを活用したデジタルアーカイブ化を進め、文化の伝承に取り組んだ。



写真3:三味線の調整



写真4:高学年による指導



写真5:1年生への「壽式三番叟」の説明



写真6:動画、画像の編集

### (3) 近松デーの実施

①浄瑠璃・和文化クラブによる「壽式三番叟」の披露、②全校児童による「下坂部音頭」の 踊り、③6年生による「近松郷土学習」の発表、④学校運営協議会の方による「近松さんが歩い たみち」の講話。伝統文化を受け継ぎ、引き継ぐ、その過程にICT機器が活用された。



写真7:壽式三番叟の披露



写真8:6年生による近松郷土学習の発表

### 5. 研究の成果

令和元年度から、本校研究テーマの中心に近松学習を取り入れて、全学年の年間カリキュラムの中に近松学習を組み込んだ。クロスカリキュラムとしてさまざまな教科に近松学習を関連づけ、近松を学習するのではなく近松で学習していく、という考え方で学習を進めてきた。

また、毎週金曜の基礎基本タイムに全校生で壽式三番叟の語りを行ったり、下坂部音頭を踊ったりしてきた。

これらの取組を継続して行ってきたことで、一年生が二年生になるころには、ほぼ全員が壽式 三番叟を語ることができるようになっている。

これらの取組をデジタルアーカイブ化し、蓄積していくことで、いつでも誰でも近松学習に取り組めるような環境整備を進めている段階である。

また、本校の近松学習の発信は、①近松デーの様子をケーブルテレビにて放送(令和3年1月1日~10日)、②壽式三番叟を尼崎市公式 You tube にて配信(令和3年1月11日~)といった形で具体化させることができた。

### 6. 今後の課題・展望

子どもたちは、「上級生になったら舞台に立って壽式三番叟を演じたい」という思いを強くもちながら、近松学習に取り組んでいる。特に上級生から下級生への指導が完全に定着したおかげで、一年生が二年生になるころには、ほぼ全員が壽式三番叟を語ることができるようになっている。

いつもあたたかく見守ってくれている地域の方々への感謝を忘れずに、自分たちも地域社会の一員であり、伝統文化を担っていくという自覚を持って、今後も近松学習に取り組ませていきたい。

そして、コロナ禍により今年度達成することができなかったことの一つに、本校と同様に近松門左衛門や浄瑠璃を題材にした学習に取り組んでいる学校との交流がある。それらの学校とICTを活用した遠隔授業や交流を実施するなどの取組を行い、「学びのつながり・広がり」を展開するためのカリキュラム開発を確固たるものしていきたいと考える。

#### 7. おわりに

令和元年度、本校の地域に根ざした近松郷土学習の取組が、博報財団主催の博報賞で文部科学 大臣賞を受賞する運びとなった。今後もこの賞に恥じないように、より高みを目指し、地に足を つけ、教育活動に邁進していく所存である。